

令和5年度物部川清流保全推進協議会総会 議事要旨

日時：令和5年8月23日（水）13:30～15:45

場所：香美市立中央公民館 2階会議室（香美市土佐山田町宝町2丁目1番27号）

出席者：【委員（代理出席含む）】 17名

【事務局】自然共生課長 3名

【その他】県河川課、内水面漁業振興センターほか、6名

- 1 高知県林業振興・環境部 自然共生課長あいさつ
 - ・会の成立を報告
 - ・「審議会等の会議の公開に関する指針」に基づき、審議内容をホームページで公開することの了承を得る。
- 2 役員改選
 - ・会長、副会長の選出
- 3 議題
 - (1) 令和4年度物部川清流保全推進協議会の取組について（報告）
 - (2) 令和5年度物部川清流保全推進協議会の取組について（協議）
 - (3) 活動の中長期目標について（協議）
 - (4) その他（意見交換等）

【議題1、議題2に対する概要】

委員	1. 「川本来の姿を取り戻すために(素案)」について 令和4年度に作成・配布された「川本来の姿を取り戻すために(素案)」は、どのように配布しどう活用されたのか、若しくはどういう変化が起こったのか。
事務局	昨年度、総会で審議・了承後、関係市町村、河川管理者へ一部郵送の形で配布している。河川改修工事の機会などに配慮いただきたい視点を書いてあるため、通知文書として一度送付した。どれほど活用されているかは追跡できていない。
委員	折角作っているのに追跡していかないと意味がない。公共工事等で取り入れたうえで問題があればフィードバックしていただくことが必要で、その仕組みを作っていただきたい。
委員	県のホームページに掲載していただけると、例えば庁内研修をするといった時に使いやすいので、対応をお願いしたい。（香美市）
会長	成果のフィードバックの仕方を含めた対応をお願いしたい。例えば配布先に、川本来の姿を取り戻したり河川環境の創出などの保全を意識した工事を行ったか聞くと良い。事例の収集にも役立つため、関係部署でも事例を集めていただけるとありがたい。成果が見えやすい取組だと思えるので、ぜひフォローアップして欲しい。

会長	<p>2. 田んぼダムを取組の可能性について</p> <p>濁水対策として浅水代かきなど精力的にやっているが、流域治水の視点で洪水の時に田んぼに水を溜めているといった話はないか。</p>
委員	<p>地下水涵養のため冬場に水を溜めているというのはやっているが、ダムのような対応はしていない。やる場所もない。</p>
会長	<p>溜めているなら田んぼダムの効果検証に使えるかと思ったがされていない。理由も明確なので了解した。</p>
委員	<p>3. 資料2へ追加記載したい内容について</p> <p>2頁の資料中、現状と課題欄に「高水温障害」を新たに加え、対応として現在行っている「利水に関する協議」を取組欄に記載いただきたい。</p>
会長	<p>4. ステークホルダーを含めた協議の場づくりについて</p> <p>河川管理者だけでなく、森林や農業など、ステークホルダーを含めた協議の場づくりを検討いただきたい。</p>
委員	<p>5. 水利権の使用期限後の対応について</p> <p>物部川の3箇所ダムでは、順次水利権の使用期限が切れていく。その更新時には一定流量流していただくことをお願いしたい。</p>
県河川課	<p>そこまでの検討は進んでいないが、検討は必要。</p>
会長	<p>水利権が今のままの数字でいく訳ではないという風に理解いただきたい。ダムの再編の話はまだ計画段階にもなっていない。そういう見通しがあるということで理解をお願いしたい。</p>
委員	<p>6. 水環境勉強会について</p> <p>「生物多様性こうち戦略」の中に漁業の歴史的な変遷が載っており、驚愕の現状が分かる。勉強会の講義ではこういうものも参考に、変遷も説明に入れてほしい。</p>
会長	<p>問題点の抽出のために過去も振り返ろう、これまでの勉強会でもやれば良かったという指摘だと思うので、今後に生かすこととしたい。</p>

【議題3に対する質疑・意見概要】

委員	<p>7. 目標値の設定について</p> <p>新たな目標値設定数は、1個、2個ではなく、10個、20個と言ってほしい。目標自体が適正かどうか重要。EBPMを意識し専門家の方々と議論していく場を持つのが県の役割だと思うので、検証していくことをお願いしたい。</p>
----	---

会長	もう少し合理的な理由のあるもののみを揚げるといことで、出来るものはやっていくべき。
委員	<p>8. 水辺林の整備について、森林環境贈与税について</p> <p>長年、民間団体が先頭を切って啓発的にやっているが、流域市民を巻き込むことが望ましい。当協議会に3市がいることは強み。3市共同でもっと市民を巻き込む視点をお願いしたい。市民が皆で水づくりをしているとなれば、それが流域のブランドになる。森林環境贈与税の件は、水づくりで育てた野菜などがブランド化されるような動きを目指し、3市が力を寄せ集め、市民が動く仕組みづくりをお願いする。</p>
会長	ファシリテーターとなる人を介するか、期間が必要かもしれない。そういう体制づくりをするための検討みたいところから、皆で考えていったらどうか。
委員	NPOの協働テーマとして、当協議会でそれぞれの活動もし協働で取り組むという方向性を出して取り組めたなら、すごく良いと思っていた。
会長	ファシリテーター業の人とか何かご存じないか。
委員	ボランティアセンターの方はよくご存じなので、問い合わせるといい人に出会えると思う。ただ、活動してもらうための資金は必要なので、そこをどう手当するかについて検討していく必要がある。
会長	今の話は、水辺林のみならず他の活動についても市民との協働は重要かと思うので、検討いただけると良い。うまくいくと大きな一歩になる可能性がある。
委員	<p>9. 子ども達を川へ呼び戻す方法の検討について、取組一覧の検討について</p> <p>環境学習で子ども達を川へ呼び戻そうとする時、「良い子は川で遊ばない」という言葉が出てくる。教育として出てくる言葉だが、その原因・問題を理詰めで考えていく必要がある。全ての事柄について言えることだが。</p>
会長	全ての項目について理詰めで考えていく、この取組一覧を作った時の担当の考えまで遡って検討をする必要があると思う。ただ、全部を一斉にやろうといっても出来るどころ出来ないところがあるので、まずはきめの細かい検討が出来そうな項目を選んでモデル的にやってみてはどうか。
委員	手始めに教育委員会と話し合いをするのはどうか。その際、「良い子は川で遊ばない」ということ背景、危険性や親御さんの心配など様々なものへの対応を併せてやらないとうまくいかない。一度検証してみる必要がある。
委員	先日の川遊びイベントで、サポーターとして市の若い職員さんが来られ、非常に心強かった。安全面やサポート面だけでなく、彼らにも川体験してほしいと思っている。今の子ども達だけでなく、その上の20代、30代も川に触れておらず、おそらく3世代抜けると文化は消滅するため、今がぎりぎりのライン。流域自治といっても職員が川というものを感じる機会も少ないと思うので、ぜひ関連部署の若

	<p>い人達に川へ入ってもらい、流域全体で川を考える一つの機運にするため、3市には配慮をお願いしたい。</p>
委員	<p>若い職員が子ども達と一緒に川へ入っている写真を見たが、自主的に参加したと思っている。子ども達と一緒に楽しむことを通じ、川への理解が進んでいくように思うので、若い職員に積極的に参加いただくことは続けていきたい。(南国市)</p>
委員	<p>自分もこういう取組があることを知っていて、担当課からも呼びかけしていた。今後も参加を呼びかけていきたい。ただ、やはり川というのは、親しんだ時に危険性の部分をどう担保していくかが非常に大事なので、教育委員会や3市で力を合わせて知恵を絞っていきたい。(香南市)</p>
委員	<p>8月1日に着任、東京生まれ東京育ちで、物部川にはほぼ馴染みがないが、馴染みがないなりに議論を伺って、水辺の楽しみ方は今大分変わってきていると思う。ミズベリングという言葉が世の中で流布しており、都会の人達は水辺を一生懸命必死になって楽しんでいる状況があるが、もっと豊かに大らかに川を楽しむ接し方があるのではと思う。若い職員と接して、世代が変わってきているという感覚があり、そういったところが新しい原動力となり、新しい川の楽しみ方が動いていけば良いと感じている。(香美市)</p>
会長	<p>若い市町村職員は地域のリーダーの候補生。そういう方が活動に加わると効果は大きいと思う。そういう職員に、重点的に参加を促すことがあっても良いかも知れないので、事務局と3市とで協議いただきたい。</p>
委員	<p>子どもが物部川に行かない理由は色々ある。やはり一番には、物部川を清流にしないと子ども達はたぶん帰って来ない。</p>
会長	<p>「良い子は川で遊ばない」は施策的な話で、そういう大人の思い込みを直すためにはどうするかを考える、そのための細かい検討をするという話だと思うので、そういう風にご理解いただきたい。</p>
委員	<p>集落の子ども達は物部川が汚いということで川へ行かない。ダムが原因だが、ダムのおかげで農家などは助かっている。そのところも少し考えていただけたらと思う。もう1回原点に戻り色んな対策を考える必要がある。</p>
会長	<p>濁水対策については、土地改良区も森林組合も含め、当協議会のみならず濁水対策検討会の方にも参画いただき努力いただいている。その中で、共に努力していく取組・対応策が必要なので、そのご意見の一つとしてお聞きしたい。</p>
	<p>「良い子は川で遊ばない」は、間違った考えを直すためにはどうするかという議論で、検討する体制について事務局と私等とで協議したい。今後皆の協力をいただくことがあるかも知れない。</p>

<p>委員</p>	<p>10.「釜ヶ淵の濁度」・「清流モニタリング調査」の指標について</p> <p>「釜ヶ淵の濁度」の指標について否定的な意見もあるが、これは上流の環境が良くなったかどうかの指標として置いておくが良い。</p> <p>実績値の17.1と書いてあるのは、継続観測された平均値なのか。</p>
<p>会長</p>	<p>調べるのに時間がかかるので宿題とする。何らかの根拠があるので、それを調べて後日メール等々で皆さん全員にお送りする。</p>
<p>委員</p>	<p>目標値の15FTUは藻類が繁殖するぎりぎりのラインという理由で設定していると想像するが、この日が何日続いたかがアユにとっても藻類にとっても重要なので、そういうことを資料に加えると良い。</p>
<p>委員</p>	<p>「清流モニタリング調査」の指標について、水生生物の種類数4種とは、調査で出た生き物の種類数か。</p>
<p>事務局</p>	<p>水生生物4種のうち何種いたか、その平均値を取っている。</p>
<p>委員</p>	<p>その4つのグループだけで分けるのではなく、網羅的に何種類ぐらいあったのかを出せると良い。調査時期は、出水で全部流されてしまう梅雨や夏場の孵ったばかりの目に触れない時期に調査したのか少ない結果になっている。5月頃やるとか時期を考えていただけたらと思う。</p>
<p>事務局</p>	<p>この調査は県の衛生環境研究所に依頼し、採取・分析等をお願いしている。複数の時期・場所で調査し、その平均値を取っている。この方法は2年前に指標を検討した段階で決めたものだが、皆様のご助言もいただいて見直しを検討したい。</p>
<p>会長</p>	<p>今の指摘は定義の問題に関わる。数年前に関係者から指標を寄せ集め作ったはずだが、もう少し中身の吟味、検討が必要であった。一度に全部見直すのは大変なので、まずは「清流モニタリング調査」と「釜ヶ淵の濁度」の2種類の方法と定義を明確にし、目標値を決め、皆にご連絡する。各指標値の裏付けを取っておくと総会や幹事会で十分議論できるので、徐々に他の指標にも波及させていくのが良い。</p>
<p>委員</p>	<p>水生昆虫というのは生き物の繋がりそのもの。単に清流の視点だけでなく、生き物の繋がり視点で見る必要がある。そのことにも目を向けていただきたい。</p>
<p>委員</p>	<p>最近水生昆虫そのものが激減している。定性的な調査は大事だが、実は当たり前の種の現存量がどれだけ減ったかという方がインパクトが大きい。生態系の中でベースとなる付着藻類の現存量や組成、それを食べる水生昆虫などベーシックなものを調べることにより、川で起こっている様々なことが分かる。</p> <p>これは当協議会ですというより、専門機関とか河川管理者も含めて視点を持つことが大事。ぜひ何らかの形で取り組んでいただきたい。</p>
<p>会長</p>	<p>今の話を聞きながら指標のところを見返したが、そういうものがない。いきなり全部刷新するのは出来ないが、指摘のあった水生昆虫等の指標を作ってみないか。</p>

	<p>意見を伺いながらモニタリングの計測可能な指標を作るということをやってみましょう。</p> <p>11. 子ども達を川へ呼び戻す方法の検討について、取組一覧の検討について</p> <p>「良い子は川で遊ばない」の話は、手元の参考資料中の福井県でも同様の状況がある。どうすればその部分が解決できるのかわからない。いくつかの学校は積極的に川にも出て行く実績があり、もう片方で川は危険であると教育委員会で取り沙汰されている。どうすれば意に沿うような形で対応できるのか。今後、事務局などで下準備的に検討いただいたうえで、声がけいただければありがたい。</p> <p>先日の子どもの川遊びイベントでは、指導する大人も嬉しそうにしていたが、更に嬉しそうだったのが子ども達。岸へ上がれと声をかけても言うことを聞かないくらい夢中になっていた。実は子どもにとって川遊びというのはめったにない機会。これから先も次の世代に繋いでいくためにも「良い子は川で遊ばない」というスローガンをどう解消していったら良いか、皆で考えていただきたい。</p> <p>今の指摘は、指標の「川で遊んだことのある子どもの人数」とかを改良するための課題、問題点、対応策という形で、まずは事務局、私も加わるので議論していきたい。あと必要な助っ人を委員の中からお願いするという事で進めていきたい。</p> <p>異議なし。</p> <p>本日の意見の中で、特に目標については見直していくこととなった。会長の指摘のとおり、取組事項も絞っていただいたので、それについてあらためて整理し、皆様にお示ししたいと考えている。よろしく願いたい。(県林業振興・環境部)</p> <p>12. 関係者間の連携について、ステークホルダーを含めた協議の場について</p> <p>今回、市の許可ではなく県の許可で行った工事で業者が対策せずに工事した結果、烏川に汚れた水が入るという事例あり。土地改良区には何の連絡もなかったが最終的には負担がかかってくるし、皆が連携しないと物部川はきれいにならない。連携プレーをお願いしたい。</p> <p>先の議論にも出たが、法律で定められた協議会の他にステークホルダーを含めた集まりの重要性について発言があったと理解。狭い範囲の直接関係者のみならず、関連するステークホルダーへの情報提供が出来る仕組みを作る。当協議会だけで出来ることではないと思うが、そういう方向で議論を進めていく。</p> <p>河川の問題などで、国や県でとか、河川管理者に何とかしてほしいという風に言われることが多々あり、当然やれることはしっかりやっていくが、あえて言うとはり限界はある。管理区域外で上流の方に河水もあるし流域となればもっと広い。一方で、当協議会は多様な方が集まる場なので、事務局には皆をもっと巻き込んでやっていただきたい。皆がそれぞれ頑張らないと清流保全に向けて解決はしていかないと思うので、より一層取り組んでいただくことをお願いしたい。</p>
委員	
会長	
各委員、事務局	
委員	
委員	
会長	
委員	

会長	<p>河川事業者に頼ってしまうところもあるが、ステークホルダーも含め、柔軟な連携を取りながらディスカッションをしていくという形で進めていく。</p>
委員	<p>3市では最近移住者が増えていると聞いている。子ども達は学校等を介し物部川の良さに触れる機会があるかも知れないが、入ってきた大人は楽しく遊べる場所や安全に遊べる場所など分かっていない。そんな新しく入ってきた人達をどういう風に物部川の関係者に巻き込んでいくか、当協議会の中で提案できる部分があるかも知れない。これからの時代そういう方々の視点が大事になってくる。新参者の目というのは面白く、若者の情報発信力もまた有効だと思う。</p>
会長	<p>外から来る人の情報発信力は大きいのでケアが重要。そういう観点で当協議会の活動内容も考えていただけると良い。</p>

閉会